

19日に認知症カフェ 大江病院 情報交換や交流促す

帯広市内の大江病院(西20南2、大江平院長)は、



同院に通院する認知症患者を含め、管内の認知症の多くの人や家族と地域を結ぶ「認知症カフェ」を19日にスタートさせる。毎月第3木曜の午後2時から開催。病院が定期的に認知症カフェを開設するのは珍しく、交流や情報交換のほか、症状や対応などへのアドバイスもできるのが特徴だ。

「寿(ことぶき)限り無し」の意味を込め、「かふえ寿限無(じゅげむ)」と命名。会場となる病院敷地内のリハビリテーション施設「暁光庵(ぎょうこうあん)」は元そば店で、カウンターとテーブル席、小上がりもあり、くつろげる空間となっている。

大江地域推進室長は「認知症患者の生活の張りになれば」とし、若年性認知症の人の居場所づくりの一つとしても期待する。同院は十勝で唯一の認知症患者医療センターに指定されている。管内がエリアで、町村からの来院者も多いことから「地域を問わず誰でも気軽に利用してほしい。認知症の人には、コミュニケーションはもちろん、手伝いを通じて症状の軽減につながれば」(同センターの佐々木雅美室長)と参加を呼び掛ける。

参加費200円。菓子と温かいコーヒー、緑茶、ほうじ茶のほか、冷たいリンゴジュースも提供する。問い合わせは同院(0155・33・6332)へ。
(折原徹也)